

平成三十年度

青少年育成春日部市民会議

「未来を担う私たちの主張（青少年の主張大会）」入賞作品

最優秀賞	地域にほこれる 最後の卒業生	春日部市立宝珠花小学校	六年	横井 鈴音	……	2
優秀賞	私が考えていること	春日部市立武里西小学校	六年	福田 日来	……	3
優秀賞	見て見ぬふり	春日部市立豊春中学校	三年	高橋 七歩	……	4
優秀賞	わたしの友だち	春日部市立幸松小学校	六年	森山 晴夏	……	5
優秀賞	「夢」について	春日部市立豊春小学校	六年	寺田 早嬉	……	6
優秀賞	私の将来	春日部市立桜川小学校	六年	佐々木 那由	……	7

◆最優秀賞◆

地域にほこれる 最後の卒業生

春日部市立宝珠花小学校 六年 横井 鈴音

私の通っている宝珠花小は、今年で開校百四十五年なる歴史のある学校だ。私の母も祖父もこの学校の卒業生で、その学校も今年で終わりをむかえる。私は最後の卒業生になるのだ。来年からは、県内初の義務教育学校の生徒になる。その前に宝小の仲間との絆を深め最後の卒業生として思い出に残る一年にしたい。

まず、六年生として下級生のめんどうをよくみるようにする。下級生ができないなわとびの技のやり方を教えてあげたり、遊ぶとき少数の人だけでなく全員に順番が回ってきたりするようにする。相手が安心するようなふわふわ言葉もかけたい。私も小さいときにもらったのでしてあげたい。

私の学校では毎朝、マラソンとリレーをしている。姉が六年生のときに二千四百周走っていた。今私も六年生になり二千五百周を目標にしている。姉が一生けん命に走る姿を見て、私も頑張ろうと思った。なので私の姿を下級生が見て、学校全体で私が思ったのと同じように感じて走ってくれる子が増えたらいい。

次に、私の目標にはいつも姉がいる。姉は努力をし、相手を思いやる気持ちがある。それに、リーダーシップがあり周囲をよく見て行動している。私は三人兄弟の末っ子で、兄と姉からいろいろなことを教えてもらい、見て学ぶことができる。二人を見習って宝小のお姉さんとして下級生を引っ張っていききたい。私は姉のようになりたい。

三、四年生のころは、自分のやりたいことを優先し周りのことを気にしていなかったし、みんなで何かを決めるときには自分の言いたいことだけを言っていた。去年、高学年になって協力すると大きい力になることを経験した。学期の終わりにお祭りをして下級生を喜ばせたり、運動会での団結、宝小フェスティバルなど学校行事があるたびに、個人ではなく集団で一つの目標に向かって

取り組むことの意義を知ることができた。私もクラスのみんなと絆を深めるために積極的に話しかけた。授業やテストで難しかったことや友達ががんばっていたこと、いいところなど話すようにした。そのおかげでクラスはまとまり、みんなとの絆を深めることにつながった。

六年生になり、入学式で私はかんげいの言葉を言った。一年生とたくさんふれ合って仲良くなり、信らいされるようになりたいと思った。登校時に朝の用意を手伝ったり、給食やそうじの仕方を教えたり、六年生として自分の仕事を早く終わらせ一年生が学校生活に早く慣れるようにした。最近、一年生から遊ぼうと寄ってきてくれるようになった。これからもっと仲良くなれるように声をかけていきたい。

私の大好きな宝小は、全校児童が五十四人という小さな学校だが、絆で考えると他のどの小学校よりも深まっていると思う。全校で昼休みに遊んだり、校庭の草取りをしたり、とても仲良しだ。父と母が同級生同士だったり、地域に知り合いもいたり、学校と地域が一体となっている。

なぜなら、伝統の大凧あげ祭りがあり、県外からも大凧を見にくる人がたくさんいる。授業でも凧作りをしたり、その凧を持って土手へ行き、凧あげ集会もする。この伝統を守っていききたい。地域の人達や卒業生が伝統を引きついできた。私も伝統を引きつぎ、地域にほこれる卒業生になりたい。今年、宝小が閉校になり母校がなくなるのはとてもさみしいけれど、ちがう学年との交流や大凧あげフェスティバルなど、宝小の良いところを残して義務教育学校でも、伝統を引きついでいきたい。

大好きな宝小で最後の卒業生として、目標を持ち、それに向かって全力で取り組みることが、今の私の目標だ。

◆ 優秀賞 ◆

私が考えていること

去年の修了式の前、「ハチドリの一滴」という本を、先生が読んでくださいました。この話は、森が火事になり、動物たちがわれ先にと逃げていく中、クリキンデイというハチドリだけは、水を一滴ずつ運んで火の中に落とすとしていく。しかし、他の動物たちはそれを見ながら笑っている…という話です。クラスのとんとどの人が、幼児向けの絵本を聞かされたかのように小馬鹿にしていました。しかし私は、その小さなハチドリ、小さな行動について考え、感動してしまいました。

私は、「気持ちの良い返事とあいさつをすること」を学校生活の中での目標にしています。なぜなら、返事やあいさつは、当たり前のことなのに、できていないからです。だから私は、六年生になるときに、返事をできるようにしようと誓いました。しかし、なぜ当たり前のことなのに、できないのでしょうか。私は、それに二つの理由があると思います。

一つ目は、意識をしていないからです。当たり前のことすぎて、自分ではできていると思ってしまう人が多いと思います。

二つ目は恥ずかしいという気持ちです。恥ずかしさがあると、あいさつや返事をしっかりとしようと思っても、声が出せません。出たとしても、小さな声になってしまいます。

「ハチドリの一滴」の中に、クリキンデイの印象的な言葉があります。

「私は、私にできることをしているだけ。」

良い行いは恥ずかしいことではありません。しかし、やらないことが当たり前になると、人は正しいことを意識できなくなってしまうのです。いつのころからか、私は手を挙げて横断歩道を渡らなくなりました。正しい行いなのに、今の私にはそれが当たり前で、手を挙げて、人々から注目されるのが恥ずかしいのです。だから私は、当たり前でもできないでいる、他の人の気持ちがわかります。

春日部市立武里西小学校 六年 福田 日来

正しく良い行いをするには、恥ずかしさや馬鹿にしまうような気持ちを捨てること、一步を踏み出せない心を超える勇気が必要なのだと思います。そんな意味を込めて、私は五年生の修了式、このことを全校児童の前で作文にして発表しました。そして、学校をより良く変えていくために、「元気なあいさつ、返事をしていく武西っこになろう。」と伝え、「私と一緒に武西を変えてくれる人は立ってください。」と言いました。そうすると、みんなが大きな声で返事をして立ってくれました。とても嬉しかったです。もちろん、私が最初に言ったので、私が一番頑張らなくてはなりません。だから、私の目標は「気持ちの良い返事とあいさつをすること」です。

私にはもう一つ、挑戦していることがあります。それは「勉強」です。いくら運動や絵を描くこと、ゲームをすることなどが得意でも、それだけでは不十分です。たとえば、運動の選手になっても、角度は何度か、何分ぐらいで走れば良いのかという計算ができなければ、記録にはつながりません。絵が得意でも、どこから光が当たっているのか、遠近感を表すには、どんな色が良いのかということを考える必要があります。ゲームでも、ここではどういう条件に合わせればクリアできるのかが分からなければ、先へ進めません。しかし、勉強ができれば、そのような様々な壁にぶつかったとき、この先どうしたら良いか、考えることができます。

私には将来、人の役に立つような仕事をしたいという夢があります。勉強は夢を叶えるためにきつと役に立つはずですが、

六年生はまだ始まったばかりですが、私は先に書いたような意識で、「返事」「あいさつ」「勉強」を大切にして、たとえわずかな一滴でも、何度でも何度でも運ぶハチドリのように、私は、私にできることを行い続けていきたいと思えます。そして、夢に向かって自分の道を切り開いていこうと思います。

◆ 優秀賞 ◆

見て見ぬふり

春日部市立豊春中学校 三年 高橋 七歩

最近、政治の問題や不正のニュースをよくみかける。自分の利益になるからとか、そんな自分勝手が許されるはずがない。でも、その人が思いついたとしても一人ではできない。必ず協力者やそれを知っていながら見て見ぬふりをしている人がいるはずなのだ。

「見て見ぬふり」

それは、私達が自分を守るために与えられた手段なのだろうと思う。だが、それに甘えてはいけけない。見て見ぬふりをする事で自分も他の人も傷つけてしまうし、苦しめてしまうからだ。

最初に話した政治の話でも、その問題に関わっていた人が自殺してしまったというニュースを目にした。なぜ、この人が命を落とさなければならなかったのか。他にも見て見ぬふりをしていた人はたくさんいたはずなのに。どうして誰も声をあげようとしなかったのか。自分の立場が悪くなるから？自分の身を守るため？そんなことは言い訳にならない。だって、実際に一人の命が失われているのだから。

自分の身を守りたいから見て見ぬふりをする。それは「いじめ」においても同じ考え方だ。私も、いじめられているところを目撃して、見て見ぬふりをしてしまったことがある。誰かに言った方がいいと思っただけで、いじめをしていたのが先輩で怖くて話すことができなかった。誰かに話すことができていれば、その人を救うことができたかもしれないのに。今でもそのことが忘れられないし、何より、自分も見て見ぬふりをしてしまったことがショックだった。

今までは、いじめを見て見ぬふりをする人に対して、何で苦しんでいる人がいるのに行動を起こせないのだろうと思っていた。でも、実際自分がその状況に立たされると、私も同じことをしてしまった。その矛先が自分に向くことを恐れて。私がしたことは、いじめられている人に「誰も助けてくれない」と思

わせて追いつめてしまう様な最低なことだ。だからこそ、同じことを繰り返したくないし、皆にも同じ思いをしてほしくない。

もし、いじめられていた人が自ら命を落としてしまったとしたら、それは一生消えない傷となる。いくら幸せになったとしてもその傷は消えないし、忘れることもできない。だから、そうなってしまいう前に見て見ぬふりはやめてほしい。少しの勇気と正義感で救ってあげてほしい。

命とは一人につきしかなく、失ってしまったら決してよみがえらないもの。あたりまえだが、とても大事なことだ。だから、自分を守りたいという、そんな思いだけでその人を犠牲にしないで。自分は見えて見ぬふりをしていていじめには関わっていないなんて思わないで。逃げないでちゃんと向き合って。私はそう伝えたい。

見て見ぬふりをしている人についてずっと話してきたが、いじめをする人はもっとひどいと思う。人の弱みをつけて反応を面白がったりする。人として最低だ。でも、いじめをする人も一人の人間。怪物でもバケモノでもなんでもない。だから、一人一人個性がちがうということのすばらしさに気付いて「いじめ」なんてことはやめてほしい。

個性を認め合って生きていくのはもちろんのこと。見て見ぬふりをするのをやめ、勇気を出してその大きな壁を越えていくことで、私たちは前に進んでいくのではないだろうか。

◆ 優秀賞 ◆

わたしの友だち

春日部市立幸松小学校 六年 森山 晴夏

わたしには、とてもそんけいしている友だちがいます。その友だちは周りに流されない性格で、しつかり「自分」をもっています。

多くの人は、いつもの行いから他人のことを判断しがちです。例えば、だれかがけんかをしている時、本当の理由を知らないのに、「多分悪いのはあの人だろう。」と思ってしまう。でもその友だちは、どちらが悪いのかを決めつけずに、両方の友だちの言い分を聞いてあげます。その場のふん囲気に負けず行動できるのは、すごいと思います。わたしは友だちのそういうところをそんけいしています。

周りに流されずに自分の意見を言うことは大事だと思います。でも、このような人たちを「空気が読めない」とばかにする人もいます。空気を読まないことはそんなに悪いことでしょうか。わたしは、そんなに悪いことばかりだとは思いません。もしいじめが起きたとき、いじめを受けている人を助けられるのは、周りの人に流されずに自分の意見を言う人だと思います。周りの人に合わせて空気を讀む人たちがばかりだったら、「その人をいじめないとだめ」な空気に合わせてしまい、助けたくても、きつと知らんぷりをしてしまうでしょう。

もちろん、空気を全く読まなくていいわけではありません。わたしはそれで何度も失敗しています。例えば、静かにしなければならぬ場面なのに、さわいでしまつて注意されたり、先生の話が終わっていないのにとちゅうで質問をして、周りに迷わくをかけたります。また、友だちの気持ちを考える前によるこんだり、話しかけたりしてしまうことがあります。三人とも同じクラスだといいいねと話していた友だちがいたのに、二人と一人で別れてしまいました。わたしは、自分が同じクラスに二人で入れたことがうれしくて、

「やった、いっしょになれたね。」

と、もう一人の友だちがいる前でよろこんでしまいました。わたしの友だちは、

そういうことで失敗しません。きちんと空気を讀んで、静かにしています。その友だちは、周りのふん囲気を感じとる必要があるかないかを、ちゃんと分かっているのです。

わたしはこれからも失敗をすると思います。賛成する人が多ければ、自分も賛成してしまうかもしれません。周りの人がかわいと言ったら、自分の好みでなくても同意してしまうかもしれません。

人に合わせるのは簡単です。しかし、「自分で判断して行動する」ことはとても難しいです。難しいけれど、大切なこの友だちから、「自分で考えていい」ということを教わり、勇気をもらいました。これから、友だちや家ぞくなどに対して先入観をもたずにどんな相談にものりたいたいです。そして、この友だちがしてくれたように周りにいいいきようをあたえられる人間になりたいです。

◆ 優秀賞 ◆

「夢」について

春日部市立豊春小学校 六年 寺田 早嬉

私の母は二十歳くらいの時、初めて日本に来ました。そして、父と結婚して日本に住むことを決め、私を産んでくれました。私が小さい頃から母は日本語と、母国語のモンゴル語の二つを教えてくださいました。そのおかげで私は今二か国語の言葉が話すことができます。夏休みなどで祖母に会いに海外に行くと、いつも母がサポートをしてくれました。

私には、そんな母が「とても頼れるお母さん」に感じられます。

母は私に外国の習慣や生活、初めて日本に来て感じたこと、驚いたことなどをいろいろ教えてくれました。そんな母と一緒にいて、私も母のような人になりたいと思うようになりました。

私の夢は一人で海外に行き、生活してみることです。そこで私は人や文化、物など多くのものに触れて暮らしたいと考えています。

そのために、私が今していることもあります。

一つは、家で外国について学習している、ということですが。様々な国の言葉を知ったり、興味を持った国の生活について自分なりに調べたりしています。

二つ目は、実際に行つて学ぶことです。家族で外国に行つたときに現地で物や人に触れたり、母から疑問に思ったことを教わったりしています。父も仕事で海外に行くことが多く、父からも外国で過ごす時のアドバイスをもらつたりしています。

私は、いつか母のように自分の力だけで世界へ行ける立派な人になりたいです。そのために、今から勉強して努力を続けていきたいと思っています。

母はモンゴルに帰ると、いつもポーブというお菓子を作ってくれます。最近私は私も一緒に作るようになりました。このポーブの味が私の家の味だ、と私は思います。私の誕生日やお祝いにはいつも、このお菓子があからです。

お菓子はそれ一つだけで楽しかったことや家族のことが思い描けるものが

あります。私は外国で、そんなお菓子を作れる人になりたいと考えています。それが、私があこがれる母のような生き方につながると思うからです。

◆ 優秀賞 ◆

私の将来

春日部市立桜川小学校 六年 佐々木 那有

私の将来の夢は、助産師になることです。その理由は三つあります。

一つ目は、小さい子（赤ちゃん）が好きだからです。私には、六才年のはなれた妹がいます。私が幼稚園の時、妹は生まれました。幼稚園で遊んでいると、お父さんが迎えに来て、「妹が生まれたよ」と言いました。私はすごく嬉しくて、一緒に遊んでいた友達みんなに知らせました。急いで病院に向かい、どきどきしながら病室に入りました。そこで、生まれたばかりの妹を初めてだかせてもらいました。妹は、想像以上に小さくて、軽くて赤ちゃんてなんてかわいいのだろうと、とても感動したことを、今でもよく覚えています。

二つ目の理由は、お母さんが看護師をしているからです。お母さんのお仕事の話聞いていて、命を預かる大変なお仕事だけれど、患者さんから、「ありがとう」と感謝してもらえ、とてもやりがいのあるお仕事だと感じたからです。そんな大変なお仕事を私達家族のために頑張ってくれているお母さんを私は、とても尊敬しています。私もお母さんのように、人の役に立てるお仕事をやりたいと思いました。

三つ目の理由は、命がたん生するところを一番近くで見守り、そのお手伝いができるのは、助産師だけだと思ったからです。助産師のお仕事は、赤ちゃんのお世話をするだけではありません。赤ちゃんを産むお母さんの体や心のケアをしてあげることです。赤ちゃんが産まれる時、「お母さんはとても不安なんだよ。」とお母さんが教えてくれました。だから、お母さんが安心、安全に赤ちゃんを産むことができるように、はげましたり、お手伝いをしてあげたいです。病院の中でも、「おめでとう」と祝ってあげられるのは、産婦人科だけです。そこで働き、命のたん生のしゅん間に立ち会うことのできる、そんな素敵なお仕事なので、私は助産師になりたいと思いました。

今はまだまだ早いかもしれないけれど、どうしたら助産師になれるのか調べ

たり、お父さんとお母さんに相談しました。すると、助産師になるためには、いろいろな方法があることが分かりました。まずは、看護師の資格を取らなければいけません。看護師の資格を取るためにも、専門学校や大学で勉強したり高校で資格が取れる学校もあり、いろいろな道があることにとてもおどろきました。今はまだどうすることが一番良いのかは、分からないけれど、今の私にできること、やらなくてはいけないことは、学校の勉強や生活を一生けん命に頑張ることだと気が付きました。苦手な教科もあるし、時々勉強が嫌いになってしまう事もあるけれど、自分の夢を叶えるためには、必要で大切な事だと思うので、なげ出さずに、頑張りたいです。助産師になるためには、看護師の資格も必要なのでとても大変だと思います。けれど、それを乗り越えて、いつか本当に助産師になれたらなと思います。